



ほうれん草の作付けについて

男鹿地区営農センター 佐藤 圭太

ほうれん草は10月から3月にかけて多く作付されている品目です。空いているパイプハウス等がある方は、ぜひ栽培してみてください。いかがでしょうか？



●作型 ※あくまでも目安です

10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
○ ○	■	■			■	
	○ ○			○ ○		■

○ 播種 ■ 収穫

●お勧め品種

冬期間の作型では、低温伸張性の高い品種をお勧めします。また、加湿状態ではべと病が発生しやすいため、抵抗性レースの多い品種を使用するのが望ましいです。

品 種	特 性	べと病抵抗性レース
パワーアップ7	生育スピードはやや早いタイプで、収量性と生育速度のバランスが良い	1~7
スパイダー	低温伸張性が抜群の秋冬播き用早生品種。立性で作業性が良い	1~7・9・11・13・15
クロノス	生育強健な豊産種で、作りやすい。多くのべと病抵抗性レースを持っている	1~7・9・11・13・15・16

●害虫対策

殺虫剤	毒 性	使用量	使用時期	使用方法	適用害虫	回 数
フォース粒剤	劇 物	900g/30坪	播種時	全面土壌混和	ケナガコナダニ ネキリムシ類	1
ダイアジノン粒剤5	普 通	600g/30坪	播種時	作条土壌混和	タネバエ	1
カスケード乳剤	普 通	4000倍 10ℓ/30坪	収穫3日前まで	散 布	ケナガコナダニ等	3

